

プラ資源化で新システム

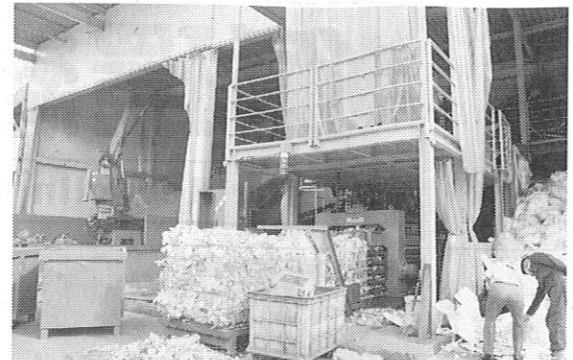
神奈川ウッドエネルギーセンター協同組合

破碎、洗浄、圧縮梱包

再生利用・フラフ燃料化

武松商事グループの神奈川ウッドエネルギーセンター協同組合(横浜、武松ひで代表理事、045・681・5607)は、廃プラスチック類のリサイクルとして、再生利用(マテリアルリサイクル)とフラフ燃料製造を組み合わせた新たなシステムを導入した。手選別・磁力選別した上で、破碎、洗浄、圧縮梱包を行い、それぞれを組み合わせる新たなシステムを導入した。市金沢区で、木くずの資源化事業を手掛けてきた。廃プラについては、01年から、紙くずなど、紙くずを合わせて固形燃料(RPF)を製造してきた。現在、近隣のセメント工場向け燃料も出荷している。

組合では1988年から、幸浦工場(横浜)で、木くずの資源化事業を手掛けてきた。廃プラについては、01年から、紙くずなど、紙くずを合わせて固形燃料(RPF)を製造してきた。現在、近隣のセメント工場向け燃料も出荷している。



マテリアルリサイクルとフラフ燃料化を進める

新システムはRPF製造事業に替わるもので、破碎の工程だけを残して設備を大型の圧縮梱包機に転換した。今年3月1日付けで処分業許可(変更)を取得し、営業運転を始めた。洗浄・脱水工程も導入し、マテリアルリサイクルやフラフ燃料には不向きだった、汚

れや有機物が付着したものにでも対応できる。軟質・硬質、汚れの度合いなどでマテリアルリサイクル向けとフラフ向けを分ける。排出事業者にはこれまで、リサイクル可能物とリサイクル不適物とを分けてもらうよう協力を呼びかけてきた。新システムで、リサ

機密文書の管理システム

セキュリティリサイクル研究所

誤廃棄や紛失等の事故防ぐ

機密文書のリサイクルなど総合管理サービスを提供するセキュリティリサイクル研究所(東京・中央、北村慎一社長)は、金融機関向けのASP型文書管理システム「SRIIR AMOS」の提供を開始した。文書保管倉庫の管理をASPサービスとしてシステム化することで、管理コスト

削減とセキュリティ向上につながる。これまでも倉庫管理システム提供の実績はあるが、ASP型の販売は今回が初となる。

金融機関では、取り扱う文書が膨大であるため、保管専用の倉庫を持つ場合が多い。しかし、倉庫の管理にかし、手書き台帳やエクセル・アクセスなど

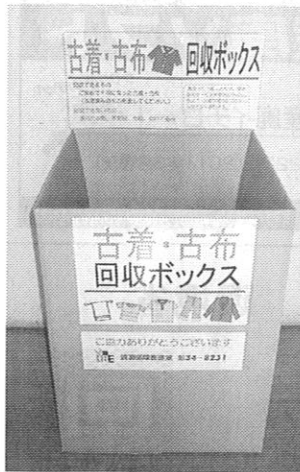
古着・古布Rで新事業

専用ボックス回収でウエスに

山口県宇部市は8月11日から、家庭で不要になった古着や古布をリサイクルの推進に取り組んでいく。

同市ではこれまで、古着・古布は月1回の可燃ごみとして出すようになっていたが、現在は各校区のふれあいセンターなどに専用の回収ボックスを置き、

リサイクル原材料としての提供を呼び掛けている。従来通り、ごみとして出すこともできる。各校区の拠点で集まった古着古布は、加工事業者である「社会福祉法人南風荘 セルプ藤山(同市)」が買い取り、ウエスとして製品化する仕組みとなっている。市が回収拠点を設け、資源物として売却するのは、ほかにプラスチック製容器包装、PETボトル紙製容器包装、古紙(新聞紙、雑誌、段ボール)がある。市が処理する可燃で



古紙回収ボックス

みは年間3万1185ポ(2010年度)で、このうち繊維類は4.6%に当たる1434ポ(毛布や布団など古着・古布以外を含む)を回収している。専用ボックスで回収するのは、洗濯済み古着・古布に限る(未使用の場合は洗濯不要。ぬれた衣類、革製品、布団、ぬいぐるみは受け付け不可となっている)。

プラスチック・紙・容器包装

イクル可能物の範囲が広がり、結果として良質な廃プラなどの量も増やせるという見方がある。

さらに、武松商事が取り組んでいる食品廃棄物リサイクルで発生する包装材も自社で資源化できるようになる。

営業エリア内には近年、他社の大型焼却・エネルギー回収施設が次々と竣工した。これに対して、マテリアルリサイクルで有価売却できるものを増やし、RPFよりも低コストで加工することができ、フラフ化に転換することでコスト競争力も上げられる。

ユニクロは8月22日、「フリースリサイクル」を開始、06年には範囲を全商品に広げて活動を展開してきた。当初は、工業用繊維などの材料としてのリサイクルを考えていたが、実際に預かった衣料のほとんどがまだ着られる状態であったことから、ユニクロは行っている。これまで、UNHRCRやジョイセフ、JRCと協力して世界22カ国の難民や避難民、災害被災者への支援として、423万着の服を提供してきた。

ユニクロは8月22日、「フリースリサイクル」を開始、06年には範囲を全商品に広げて活動を展開してきた。当初は、工業用繊維などの材料としてのリサイクルを考えていたが、実際に預かった衣料のほとんどがまだ着られる状態であったことから、ユニクロは行っている。これまで、UNHRCRやジョイセフ、JRCと協力して世界22カ国の難民や避難民、災害被災者への支援として、423万着の服を提供してきた。

の簡易システムで行っているため、文書の年限管理や在庫管理が徹底されず、誤廃棄や紛失といった事故になるケースも見られるという。

これらの対策として、同社では金融機関の自社倉庫向けにサーバ管理が不要なASP型システムを開発した。保管棚・箱をバーコード

管理することにより、倉庫スペースの有効活用と検索性の両立を確保。サーバの購入、管理が不要で、インターネット環境が整ってれば、すぐに利用することができる。また、金融機関の自社倉庫からSRIIRへの通信にはVPN接続を採用。ASPのセキュリティ面での心配もないとしている。

雑誌在庫は減少傾向
関東製紙原料直納商組合

をさらに拡大する考えだ。回収の実施期間は、通年、各国のユニクロ

N-EXPO/KANSAI '11 記念セミナーのご案内

日時: 2011年9月7日(水)~9日(金)
午前10:30~13:00、午後14:00~16:30
会場: インテックス大阪6号館 5階 ホールG (大阪市住之江区南港北1-5-102)
定員: 各セミナー80名(Gセミナーのみ50名)
聴講料: 事前登録制 1セミナー 8,000円(税込)、当日受付は9,000円(税込)になります。

※事前登録に限り1社から4本以上の申し込みは1セミナー7,000円
※1社から4本以上のお申し込みによる割引は、1回のお申し込みのみ適用となります。
※事前登録の受付は9/2(金)15:00にお申込書到着分まで締め切ります。以降の到着分は当日扱いとなりますので、ご注意ください。

- 9月7日(水)**
- 午前(10:30~13:00)
A 廃プラ利用の最前線——原料・燃料・輸出
「廃プラの海外輸出の現状と展望」
㈱ジームス・アソシエイツ 代表取締役 有岡義洋氏
「『エフピコ方式』のリサイクル ~トレーをトレーに、PETボトルをトレーに~」
㈱エフピコ 環境対策室マネージャー 井上達弘氏
「RPF燃料化とマテリアル原料化」
エビス紙料㈱ RPF事業部長 海田次朗氏
「海外輸出とマテリアル利用の今後」
剣豪集団㈱ 代表取締役会長 鄭劍豪氏
- 午後(14:00~16:30)
B 循環資源と廃棄物処理——古紙・プラ・金属類
「循環資源の海外利用、アジアの3Rと日本の役割」
㈱ジームス・アソシエイツ 代表取締役 有岡義洋氏
「古紙リサイクル機密書類の処理」
㈱RDVシステムズ 代表取締役 松本敏治氏
「廃棄物処理のリサイクル動向」
- 午後(14:00~16:30)
D 建設系混合廃棄物と石膏ボードリサイクルの今後——処理実態と事例
「解体工事業界及び解体廃棄物の現状」
社団法人解体工事業団体連合会 事務局長 出野政雄氏
「解体現場における石膏ボードの処理」
㈱南海興業 建設部部長 大島陽人氏
「混合廃棄物の処理事例」
㈱姫路環境開発 営業部部長 牧原秀仁氏
- 午前(10:30~13:00)
E 変遷する都市鉱山開拓事情——概況、学術事例、処理
「都市鉱山・レアメタル・レアアースの概況」
㈱日経アイ・ピー 編集部記者 大津佳之
「微生物機能を用いたレアメタルリサイクル技術シーズの進捗」
大阪府立大学工学部教授 小西康裕氏
「リサイクル技術とシステム構築——持続可能な社会の実現へ~」
ハルタ金属㈱ 代表取締役社長 張田真氏
「都市鉱山リサイクル中小規模事業者の取り組み事例 ~"集める"から"処理"まで~」
㈱協同回収 業務課長 大黒勝氏
- 午後(14:00~16:30)
F 食品リサイクル・ループのつくり方——概況、堆肥化、飼料化
「食品リサイクル法制度の進捗について」
㈱日経アイ・ピー「月刊廃棄物」編集部 課長 全国食品リサイクル登録再生利用事業者事務連絡会 顧問 新倉充
「生協が取り組む堆肥化~循環型農業への道のり」
大阪いずみ市民生活協同組合 専務理事 兼 産物開発担当 永野秀明氏
「麹菌を利用したリキッド(液状)発酵飼料と養豚事業」
㈱源興研究所 代表取締役社長 山元正博氏
「地元農家と共にリサイクル・ループの構築」
全国食品リサイクル登録再生利用事業者事務連絡会 常任理事 堀三由 代表取締役社長 比野寛之氏

日経アイ・ピー 9月の廃棄物セミナー
アルミ蒸着フィルムのリサイクル
~印刷・加工ロス品の再資源化と使用済み包装材の処理~

アルミ蒸着フィルムは、産業活動や日常生活で必要不可欠なものになった。一方で、フィルムメーカーや印刷会社で発生する印刷・加工ロス

<演題と講師>
「印刷・加工ロス品の機密保持とマテリアルリサイクル」